

J Urol	Interleukin-21 activates cytotoxic T lymphocytes and natural killer cells to generate antitumor response in mouse renal cell carcinoma	Kumano M, Hara I, Furukawa J, Oniki S, Nagai H, Miyake H, Fujisawa M	皮膚科
Photochem Photobiol	Involvement of interleukin-10 promoter polymorphisms in nonmelanoma skin cancers—a case study in non-Caucasian skin cancer patients	Nagano T, Kunisada M, Yu X, Masaki T, Nishigori C	皮膚科
図説分子病態学	遺伝子修復機構とその異常	錦織千佳子	皮膚科
日本皮膚科学会雑誌	光生物学と皮膚疾患 紫外線発癌	錦織千佳子	皮膚科
皮膚科診療プラクティス20 Environmental Dermatology 環境・職業からみた皮膚疾患	光発癌	錦織千佳子	皮膚科
Am J Respir Crit Care Med	O2-enhanced MRI vs. CT: Multi-center Study for the Clinical Stage Classification of Smoking-related COPD	Ohno Y, Iwasawa T, Seo JB, Koyama H, Takahashi H, Oh YM, Nishimura Y, Sugimura K	放射線科, 放射線部
Eur J Radiol	Basics concepts and clinical applications of oxygen-enhanced MR imaging	Ohno Y, Hatabu H	放射線科, 放射線部
Hum Gene Ther	Long-term outcome of phase I/II clinical trial of Ad-OC-TK/VAL gene therapy for hormone-refractory metastatic prostate cancer	Shirakawa T, Terao S, Hinata N, Tanaka K, Takenaka A, Hara I, Sugimura K, Matsuo M, Hamada K, Fuji K, Okegawa T, Higashihara E, Gardner TA, Kao C, Chung LW, Kamidono S, Fujisawa M, Gotoh A	放射線科, 放射線部
INNERVISION	領域別に見る64列MDCTの検査と診断 胸部領域 胸部領域における64列MDCTの臨床と展望	神山久信, 大野良治, 竹中大祐, 杉村和朗, 尾西由美子, 野上宗伸	放射線科, 放射線部
J Magn Reson Imaging	STIR turbo SE MR imaging vs. coregistered FDG-PET/CT: quantitative and qualitative assessment of N-stage in non-small-cell lung cancer patients	Ohno Y, Koyama H, Nogami M, Takenaka D, Yoshikawa T, Yoshimura M, Ohbayashi C, Sugimura K	放射線科, 放射線部
医工学治療	【ステント・ステントグラフト治療の現状と将来】 腸骨下肢動脈領域のステント治療の現状と将来	杉本幸司, 川崎竜太, 北川敦士, 北野育郎, 山口雅人, 森岳樹, 谷口尚範, 辻義彦, 杉村和朗, 大北裕	放射線科, 放射線部
見て診て学ぶ肺癌の画像診断	MRI—現状での利用価値と利用法	大野良治	放射線科, 放射線部
呼吸	CT画像のCADシステム 胸部CT診断におけるコンピュータ支援診断の進歩	大野良治, 松本純明, 山形仁, 杉村和朗	放射線科, 放射線部
日本磁気共鳴医学会雑誌	胸部MR検査におけるMinimum Requirement	大野良治, 尾西由美子, 神山久信, 野上宗伸, 竹中大祐, 杉村和朗	放射線科, 放射線部
肺癌	Multi-slice CTによる肺癌のT因子診断	大野良治, 神山久信, 野上宗伸, 松本純明, 竹中大祐, 小谷義一, 真庭謙昌, 西村善博, 大林千穂, 吉村雅裕, 杉村和朗	放射線科, 放射線部
Biol Pharm Bull	Knock-down of Sorcin Induces Up-regulation of MDR1 in HeLa Cells	Kawakami M, Nakamura T, Okamura N, Komoto C, Markova S, Kobayashi H, Hashimoto N, Okumura K, Sakaeda T	薬剤部
Biol Pharm Bull	IL-1beta genotype-related effect of prednisolone on IL-1beta production in human peripheral blood mononuclear cells under acute inflammation	Markova S, Nakamura T, Makimoto H, Ichijima T, Yamamori M, Kuwahara A, Iwaki K, Nishiguchi K, Okamura N, Okumura K, Sakaeda T	薬剤部
Biol Pharm Bull	Association of cumulative cyclosporine dose with its irreversible nephrotoxicity in Japanese patients with pediatric-onset autoimmune diseases	Nakamura T, Nozu K, Iijima K, Yoshikawa N, Moriya Y, Yamamori M, Kako A, Matsuo M, Sakurai A, Okamura N, Ishikawa T, Okumura K, Sakaeda T	薬剤部
Bmc Med Genet	Two novel missense mutations in the myostatin gene identified in Japanese patients with Duchenne muscular dystrophy	Nishiyama A, Takeshima Y, Saiki K, Narukage A, Oyazato Y, Yagi M, Matsuo M	薬剤部
TDM研究	Cyclosporineからsirolimusへの切り替えに際し、sirolimus血中濃度の一過性上昇を認めた症例	中村任, 五百蔵武士, 大松秀明, 山下和彦, 白木孝, 堀之内正則, 西口工司, 福本巧, 具英成, 岡村昇, 角山圭一, 奥村勝彦, 柴田敏之	薬剤部
TDM研究	小児患者におけるシクロスポリンのTDM ネオールC2モニタリングの現状と課題	中村任, 柴田敏之, 奥村勝彦	薬剤部
医療薬学	食道がん化学放射線療法における病期、奏効と予後との相関	桑原晶子, 山森元博, 横本博雄, 西口工司, 八木敬子, 奥野達哉, 茶屋原菜穂子, 三木生也, 田村孝雄, 平井みどり, 柴田敏之	薬剤部
実験医学	遺伝子型を60°C, 30分で判定する	中村 任	薬剤部

薬事	【薬学的視点から薬をみる力 薬物動態パラメータをどう読むか?】薬効別薬の特性把握のポイント 免疫抑制薬	中村任, 柴田敏之	薬剤部
Diabetes Res Clin Pract	Insulin as a T cell antigen in type 1 diabetes supported by the evidence from the insulin knockout NOD mice	Moriyama H, Nagata M, Arai T, Okumachi Y, Yamada K, Kotani R, Yasuda H, Hara K, Yokono K	老年内科
Neurobiol Aging	Factors associated with lower mini mental state examination scores in elderly Japanese diabetes mellitus patients	Umegaki H, Iimuro S, Kaneko T, Araki A, Sakurai T, Ohashi Y, Iguchi A, Ito H	老年内科
糖尿病	ピオグリタゾンにより認知機能の改善が認められたアルツハイマー病を合併した高齢者糖尿病の1例	松沢俊興, 櫻井孝, 明寄太一, 芳野弘, 高田俊宏, 横野浩一	老年内科
日本臨床	【アルツハイマー病 基礎研究から予防・治療の新しいパラダイム】臨床編 アルツハイマー病の新しい治療法の開発 新規医薬品 チアソリジン誘導体	櫻井孝, 横野浩一	老年内科

(注)

計 107

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 杉村 和 朗		
管理担当者氏名	薬剤部長 平井 みどり	総務課長 江本 一行	管理課長 大橋 利一
	学務課長 二瀬 勝康	医事課長 網野 啓吾	

	保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療録センター (エックス線写真→各診療科、処方せん→薬剤部、病院日誌→総務課)	病歴資料については診療録センターで集中管理を行い、エックス線写真、処方せん、病院日誌は当該担当部署において、保管している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
	高度の医療の提供の実績	医事課
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	学務課
	高度の医療の研修の実績	総務課
	閲覧実績	総務課
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
確規保則の第9条の2及び第1条の1各号に掲げる体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医事課
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医事課
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	総務課
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医事課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	総務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医事課 薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医事課 薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医事課 薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課 薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	管理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	管理課
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	管理課		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	管理課		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 杉村 和朗		
閲覧担当者氏名	薬剤部 平井 みどり	総務課長 江本 一行	
	学務課長 二瀬 勝康	医事課長 網野 啓吾	
閲覧の求めに応じる場所	応接室		

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	59.9 %	算定期間	平成19年 4月 1日～平成20年 3月31日	
算出根拠	A: 紹介患者の数		14,887	人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		3,970	人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,423	人
	D: 初診の患者の数		29,885	人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 9 条の 2 3 及び第 1 条の 1 1 各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 (1 名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 (1 名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
・ 所属職員： 専任 (1) 名 兼任 (1 8) 名 ・ 活動の主な内容： 別紙のとおり	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
・ 指針の主な内容： 別紙のとおり	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
・ 活動の主な内容： 別紙のとおり	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 4 回
・ 研修の主な内容： 別紙のとおり	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
・ 医療機関内における事故報告等の整備 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 別紙のとおり	

③ 活動の主な内容：

- (1) 医療安全管理委員会の資料の作成、議事要旨の作成及び保存を行っている。
- (2) インシデントの発生時、医療事故かヒヤリ・ハットに該当するかを分析し、事故等であれば、緊急問題検討会議を開催する。緊急問題検討委員会で、事故当事者より診療録に基づき報告を行うよう指導し、併せて診療録、看護記録の確認も行っている。
- (3) インシデント審議依頼書に、患者・家族への対応状況について記入する欄を設けている。記入漏れや詳細内容については、医療安全管理室で確認・指導を行っている。
- (4) 緊急問題検討会議で、病院長を始め事務部長や看護部長等より事故当事者・直属の上司へ原因究明の調査を行っている。また、是正処置実施計画書・報告書により事故防止策の提出を発生部署へ依頼している。議事要旨を医療安全管理委員会で報告している。
- (5) 各部署にリスクマネジャーが任命・配置されている。必要に応じリスクマネジャー連絡会議を開催し、各リスクマネジャーに事例等を報告している。新任のリスクマネジャーには、研修を行っている。
また、毎月刊行の附属病院広報誌に、リスクマネジメントニュースを掲載し医療安全に関する情報を公開している。
- (6) 医療安全管理マニュアルを作成し、全部署に配付し、医療事故の防止を図っている。また、職員全員に医療スタッフポケットマニュアル配付し説明を行っている。さらに、医療情報端末から医療安全管理マニュアルがダウンロードできる。また、年2回医療事故特別防止月間を設け実施している。内容は、事故防止のポスターの掲示、医療事故防止のための職員必修講習の開催、医療安全管理室から各リスクマネジャーへ点検項目を依頼し実施している。点検結果を医療安全管理室で集約分析し、リスクマネジャー連絡会議で講評している。

⑤ 指針の主な内容：

- (1) 医療機関における安全管理に関する基本的考え方
大学病院は一方では高度の医療を提供する使命を持ち、また、医療経済の上からも効率的な運用が求められているが、それにもまして患者の安全を第一に、一貫して患者の視点に立つ医療を心がける。また、事故を誘発しない環境や、未然に防ぐことのできるシステムを組織全体として構築することが必要である。そのための取り組みとして、①医療安全管理マニュアルの作成②教育・学習活動の展開③医療事故、ヒヤリ・ハット報告システムの確立④常設委員会の設置を位置づけている。
- (2) 医療に係る安全管理のための委員会その他医療機関内の組織に関する基本的事項
病院全体のレベルと各部門レベルのそれぞれで体制を確立するとともに、両者の連絡を図り、病院としての一元的な体制を整備することが重要である。本院では、中枢機関として「医療安全管理委員会」および「医療安全管理室」が設置されている。また、各部署に「リスクマネジャー」が任命・配置されている。